

平成20年度 学校自己評価システムシート (県立羽生高等学校)

目指す学校像	不登校等、多様な問題を抱えた生徒の基礎学力・集団生活力を養い、社会的自立を実現するとともに地域の生涯学習機関として貢献できる学校。
--------	---

重点目標	<p>1 生徒として望ましい授業態度の育成に努めるとともに、少人数の良さを生かした指導方法を工夫・共有して、基礎学力の向上と問題解決力の充実を推進する。</p> <p>2 学校自己評価システムの効果的な活用を図り、広報活動の一層の充実に努め、地域に開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>3 生徒に基本的な生活習慣を身につけさせ、社会性を培い、規律ある明るい校風づくりを推進する。</p>
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	9名
	事務局(教職員)	9名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							
年度目標				年度評価(2月23日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>○基礎学力に差があり、目的意識や学校に対する期待も多様化している。こうした生徒の質的な変化に対応した取組が必要である。</p> <p>○授業に興味・関心・意欲を持ってない生徒に対し、授業改善のための職員研修会の実施や情報共有体制の充実を図る必要がある。</p>	授業改善を始めとする学力向上に関する取組	<p>○授業に臨む準備態勢や提出物の徹底などを繰り返し指導する。(年次・教科担当)</p> <p>○授業態度や出欠席に問題がある場合は、HR担任や当該年次が家庭と連携を図りながら段階を踏んで指導する。(年次・生徒指導)</p> <p>○単位制に関するガイダンス機能を充実させる。(教務)</p> <p>○授業公開や研修会を通して生徒に対する教員の共通理解を図り、指導方法の改善や工夫を推進し、「基礎学力の向上」や「問題解決力の充実」を一層推進する。(教務)</p>	<p>○職員への「授業実施アンケート」と職員研修会の実施。</p> <p>○学習態度改善指導を受けた生徒の内容・傾向・数を継続把握。</p> <p>○ガイダンス機能の充実と履修・修得率の継続的観察。</p> <p>○生徒・職員への「授業評価アンケート」の継続実施。</p>	<p>○96%の教員が、分かる授業を推進できたと回答。</p> <p>○定期考査の大幅な遅刻者、早退者を調査。 前期中間20名 期末23名 後期中間9名 期末6名</p> <p>○履修成立率 79.4% (-0.1P) 単位修得率 76.9% (+0.3P)</p> <p>○「授業の分かりやすさ」、「教え方の工夫」の項目で、6P肯定的評価が高まった。</p>	B	<p>○授業改善 → 授業評価について、生徒の評価と教員の達成度評価との差の縮減 → 職員研修会の充実 → 授業公開の拡充(授業実践の集約・発表)</p> <p>○学習意欲の向上 → 職員研修会の実施 → 個別面談の実施 → 受講指導の改善 → 進路実現指導の充実(進路ディスカッション等の新たな取組の実施)</p>
2	<p>○本校の特色や教育活動についてさらに周知されるよう、情報発信機能の改善が必要である。</p> <p>○特別講座の開設や科目履修生の募集など、生涯学習機関としての役割を果たしている。</p> <p>○学校自己評価システム及びそこから得られる本校の教育課題を共有する必要性がある。</p>	開かれた学校づくりの取組	<p>○校外への情報発信方法を改善(HP・学校案内・ポスター等)し地域の人々に本校の特色や教育活動の理解を深める。(教務・渉外)</p> <p>○中学校・高校等に本校の教育成果を継続的に発信し、生徒募集に生かす。(教務)</p> <p>○特別講座・科目履修生の募集について継続した取組を実施していく。</p> <p>○外部評価の適切な活用を図るために学校評価懇話会の提言を速やかに反映する取組を行う。(教務他)</p>	<p>○本校HPの検索数の推移を継続調査。</p> <p>○情報発信方法の検討。</p> <p>○中学校・高校等の訪問資料の改善。</p> <p>○特別講座受講者や科目履修生に対するアンケート調査と集約。</p> <p>○文化祭等の広報と来校者数調査。</p> <p>○学校評価懇話会による評価の反映。</p>	<p>○月平均1,400件のアクセスがあった。(昨年度1,000件)</p> <p>○本校HPの新システム移行を準備検討中。</p> <p>○学校案内の改訂とポスターの刷新。</p> <p>○彩の国進学フェアへの参加 ○H20 320名(H19 384名 H18 304名)</p> <p>○「生涯学習を担う学校」としての認識が定着してきた。</p> <p>○学校公開講座の実施(7月、8月、12月の3回)</p> <p>○「学校評価懇話会だより」の各家庭への郵送配布。</p>	A	<p>○情報発信機能改善 → 本校HPの新システムへの移行 → 学校案内等の刷新 → 彩の国進学フェア参加 ○特別講座の充実 → 特別講座の継続(内容の工夫及び充実) → 学校公開講座の継続 ○学校自己評価システムの定着と改善 → 地域アンケートの回収率向上と集約意見の反映 → 学校評価懇話会の内容を周知する工夫</p>
3	<p>○対人関係形成などで、課題を抱えている生徒がいるので、教育相談体制を充実させる取組が必要である。</p> <p>○基本的な生活習慣が身に付いていない生徒がいる。ねばり強く目に見える生徒指導の実施が必要である。</p>	生徒指導・教育相談の取組	<p>○職員研修会の工夫など教育相談体制を充実させ、生徒理解を深め、個別指導での改善を図るとともに関係機関との連携を深める。(教育相談)</p> <p>○学校内外の巡回や意識啓発の情報提供により生徒の規範意識を高める。(生徒指導)</p> <p>○登下校時の挨拶指導や交通指導、マナーアップの取組などを関係機関とも連携し実施する。(生徒指導他)</p> <p>○特別活動の活性化(生徒会)</p>	<p>○職員研修会の開催と保護者への反映の状況。</p> <p>○生徒の個別相談件数の推移と生徒の生活変化の状況把握。</p> <p>○巡回指導の効果の検討。</p> <p>○問題行動の発生件数の把握と分析。</p> <p>○関係機関(警察等)との連携状況。</p> <p>○活動状況の調査・集約。</p>	<p>○職員研修会の実施(6月、12月の2回)</p> <p>○教育相談部会の定期開催(金曜日)</p> <p>○中退者数(31名)</p> <p>○H20 26件(37名) H19 9件(17名)</p> <p>○非行防止教室の実施 交通安全指導の実施</p> <p>○全国大会出場部活動2部(柔道部、剣道部)</p> <p>○未成年者喫煙防止キャンペーン参加(生徒会役員)</p>	B	<p>○教育相談の充実 → SCの配置 → 職員研修会の実施 → 「保護者の集い」の実施方法等の改善</p> <p>○生徒指導の充実 → 巡回指導の継続 → 生徒のマナー意識調査(アンケート作成・実施) → 校内生徒指導方針の周知 ○特別活動の活性化 → 校外における生徒の活動機会の拡充</p>

学校関係者評価	
実施日	平成21年2月20日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>・達成度は、極めてAに近いBである。</p> <p>・授業評価に関するアンケートについて、生徒アンケートも保護者アンケートも肯定的回答が多く、授業改善に取り組んでいる様子が伺える。</p> <p>・アンケートの設問も適切で、年次を追って集計し継続していきやすい。</p> <p>・教師と生徒の心の交流がある学校だと感じる。こうした点が評価されてきている。</p> <p>・授業を改善し、教材を工夫して学習効果を上げる試行は、以前から続けられている。それらは歴史的な蓄積になる。</p> <p>・多様な問題を抱える生徒の視点にも配慮して、時間割を作成していただきたい。</p>	
<p>・地域住民へのアンケートは非常にすばらしい取組である。今まで関心のなかった方にも関心を持ってもらえる利点もある。</p> <p>・全体的に良い方向に向かっている。統計上大きく変化させることは難しい。継続が大切である。</p> <p>・HPでのPR、市や県主催のイベントへの積極的な参加を望む。</p> <p>・校外に、生徒の活躍をもっと積極的にアピールしたらどうか。生徒の自信にもつながる。</p> <p>・保護者と生徒で連携し、勾玉祭等の機会を利用して、羽生高校の良さを広めたい。</p> <p>・今後も生涯学習の場としてもPRしていただきたい。</p>	
<p>・達成度は、極めてAに近いBである。自信を持って、来年度以降も取組を継続していただきたい。</p> <p>・感激して嬉しかったことは、ほぼ全員に近い保護者が、「子どもを「羽生高校に入学させて良かった」と、アンケートで答えていることである。先生方が真摯に教育活動する姿勢が頼もしく反映している。</p> <p>・生徒指導は、根気強く繰り返し繰り返し指導することである。学校全職員の一体化した、一枚岩の指導に期待している。</p>	